

PROFILE

1959年人吉生まれ。結婚・出産を機に女性の一生に関わる仕事したいと決意。B-Smileを設立。

「要望」を「期待」「チャンス」ととらえ、新しいことに挑戦！



B-Smile 事務局
熊本市南区島町3-3-5
URL : <http://www.b-smilejp.com>

—B-Smileではどんな仕事をされているのですか。

黒木 メディカルアロマセラピー、親子ビクス、身体改善体操など、対象によって行うことは異なりますが、皆さんに喜んでもらえること、求められていることを教える仕事です。

—仕事を始めたきっかけは？

黒木 女性が社会に進出するとき

番ネックになるのが、「女だから」ということ。壁を自分で作る前に作られてしまう。だったら、それにあらがうのではなく、その中でできることを考えようと思いました。最初感じたのは、妊娠中に行く場所が少ないこと。出産後は、子連れで行ける場所が少ない。それなら自分で作るしかないと思い、公民館などに

け合いました。そして体操指導を始め、「女性の一生に関わる仕事をしよう」と考えるようになりました。

—大学生活から得たものは？

黒木 体育系の大学にいたため、とても厳しかったです。講義後は部活の舞踊部。朝から夜遅くまで学内にいました。自由がないことは本当につらいものですが、集団で怒られる、自分勝手にはできないという体験は、精神力を鍛えてくれました。エアロビクスとの出会いも大学時代。エアロビクスが日本に入ってきたころ、けがをしていた私が被験者となり、リハビリの一環として体験したのです。それが現在につながっています。

—これからの目標を教えてください。

黒木 妊娠中「行けるところがないなら作るしかない」と思い、始めたマタニティビクス。その後、「産後にできることはないか」との要望から生まれたアフタービクス。親子ビクスや身体改善運動も、やっているうちに

「こんなことはできないの？」という声に応えてきた結果です。みなさんからの「要望」を「期待」「チャンス」ととらえ、そのたびに新しいことに取り組んできました。目の前のことや人を大事にすれば、それが将来につながる。これからも、目の前のことをしっかりやっていきたいと思えます。

厳しい学生生活が、「どんな社会に出て、どんな人にも会っても大丈夫」という自信につながりました。今は「つらい」と感じる体験もきっとあなたを育ててくれますよ。



取材担当

尚綱大学2年
野田真史

2001年	1996年	1991年	1990年	1989年	1986年	1981年
設立	第1期OKJ(親子キッズストラクター養成コース)	第3子出産	第2子出産	結婚	実家の後継ぎとして帰郷。エアロビクスインストラクターとなる	大学卒業後5年間教員として勤める

輝きの軌跡

黒木千代子さんの
キャリアストーリー